

科目名	<b>労働経済学</b>	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	<b>Labor Economics</b>	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年
ふりがな	ふじもと つよし	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	<b>藤本 剛</b>	修得単位	<b>2単位</b>
授業のテーマ	労働市場、労働条件・労働環境、労使関係について基礎知識を学び、働くことへの理解を深めます。		
到達目標	労働に関連する知識や理解を深め、働くことに対する自らの意識を充実させることです。		
授業概要	3年後半になると就職活動が現実になってきます。この授業では「働く」ときに直面することになるさまざまな問題を社会政策の側面から取り上げ、制度や仕組み、現状と課題などについて共に考えていきます。近年、年功序列、終身雇用などを特徴としてきたわが国の労働市場が、派遣やパート労働、契約雇用など流動性を増大させており、また成果主義による賃金の導入も拡大しています。さまざまな労働をめぐる問題について、より踏み込んで分析し、確かな判断力と今後への指針を得るのがこの科目の目標です。		
授業計画			
第1回	労働経済学とは何か		
第2回	労働市場をどう捉えるか (指標)		
第3回	労働市場政策① (雇用・失業対策)		
第4回	労働市場政策② (女性、若者)		
第5回	労働市場政策③ (高齢者、障害者、外国人)		
第6回	労働時間をめぐる政策の流れ		
第7回	今日の労働時間問題とワークシェアリング		
第8回	賃金制度		
第9回	賃金政策 (最低賃金制など)		
第10回	日本の賃金と賃金政策		
第11回	今日の賃金問題 (成果主義・年俸制など)		
第12回	労使関係とは		
第13回	労働組合		
第14回	日本の労使関係 (歴史)		
第15回	日本の労使関係 (現状)		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	授業の予習・復習を心がけてください。(0.5時間程度) 授業で取り上げるテーマに関連するレポートやメッセージを求めることがあります。		
履修条件 受講のルール	日頃からテレビや新聞などで、賃金や労働時間に関連するニュース、働き方改革や春闘などに関する情報に関心を持ってチェックしてください。(0.5時間程度)		
テキスト	プリントを使用します。		
参考文献・資料	『公務員Vテキスト12 社会政策』第12版 TAC出版 『労働経済白書』各年版		
成績評価の方法	レポート(30%)、定期試験(70%) 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。		

	・レポート課題は授業内又は掲示板で指示します。
オフィスアワー	火曜日・水曜日の16時～17時
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	労働力人口の減少が進む中で、働く現場でさまざまな変化が生じています。何が変わり、変わっていないのは何か。これから社会に出て行く上で、知っておきたい知識を身につけてください。